

2022年1月

からし種

カトリック片瀬教会



叙階 60 周年を迎えて

ブランチフィールド神父

12月22日、クリスマスを迎えるための舞台はもう整っています。祭壇の前の馬小屋に、マリアとヨゼフの人形が入っています。祭壇の前のリースのろうそくが、4本とも点されました。朝のミサの朗読にイエズスの系図が読まれています。そこには、マリアのお告げの場面があって、ヨゼフが夢の中でためらわずにマリアを妻として受け入れるように、「生まれる子は神の子インマヌエル」と言われました。

24日25日のごミサには、喜びを持って来られる方が神の子みことばを迎え入れることだけを待っています。このクリスマスが皆さんにとって恵みの多い時となるよう、祈っております。

私自身にとっては、このクリスマスは特別です。60年前の1961年12月20日に司祭として叙階されました。今年は60年の祝いを迎えています。皆さんのお祈り、お祝いのメッセージに心から感謝しています。

60年前に叙階された私たちは18名でした。その翌年、皆はそれぞれの宣教地に振り分けられました。皆それぞれ「司祭とは何か?」と、イメージを持っていましたが、60年経ったところで振り返ってみると、大分違ってきました。叙階された当時は、公会議前であったので、全ては皆ラテン語であったし、信徒に背を向けてミサをあげていました。

公会議後の決まりで随分変わりました。公会議後の時代に入ってから、皆さんと関わり合いながら、徐々に「司祭とは何であるか」が少し分かって来ました。長い60年の間に、皆さんに受け入れられ愛されて、今の自分となって来ました。私は心から、全てのために神様に感謝するしかない、と思っています。そして、私が関わった沢山の人のために祈りたいと思います。良いお年をお迎えください。



新しい年を迎えて

教会委員長 池尾昇治

皆様、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

教会委員会は改選せず 3 年目を迎えるわけですが、その理由はコロナ禍で教会活動がほとんど停止している状態なので神父様が、活動が再開した時に混乱しない様に経験ある現委員の体制を維持してほしいということからでした。それは昨秋行われた信徒の話し合いで浮彫になった課題、

1. 信徒同士が知らない、交わりがない。
2. 教会委員会、活動を知らない、分からない人がかなりいる。

ということが深く関わっています。

今年は片瀬教会の信徒皆様と共に教会の在り方を見直してみたいと思います。ご存知のように「教会」は「エクレジア」すなわち神の民の集団ということです。神を信じる人々が集い神への奉仕をすることですが、そこには「互いに愛し合いなさい」という第一の掟がなければ意味がありません。私たちがミサに信仰宣言の中で「聖徒の交わりを信じる」と唱えています。

1. 信徒同士が知り合い、交わるにはどうするか。神父様が「マスクで顔が分からないので名前を覚えられない、名札を付けてください。」と言われ皆様は名札を掲げる様にしました。これは神父様の信徒一人一人を覚えるという真摯な考えの現れだと感じています。これは神父様と信徒間の事だけでなく、信徒同士にも関わることで本来我々信徒自身からすべきことでした。是非見やすい様に名札を着用して頂きたいものです。

また、早いうちから近隣に住む方々の集まりをしたいと神父様と話し合っています。住所に基づいてまず近所同士が知り合っていく場を設けていきます。

また、1月から毎月の第一主日の先唱、朗読、答唱詩編は、中高大青会と教会学校が行うようになっていきます。中高大青会のお兄さん、お姉さんたちが教会学校の子どもの面倒を見てくれるようになったらいいなと思います。その他にも信徒の交わりが深まるアイデアがあれば提案してください。

2. 教会委員会や係の活動については、今まで担当交代時の引継ぎにより伝承されてきたわけですが、これを一旦委員会のテーブル上に広げて中身を見直し、整理します。そこでそれぞれの活動内容や組織の見直しが必要になるかも知れませんが、内容を整えたうえで教会規約としてまとめていけたらいいのではないかと考えています。これについてもアイデアがあれば提案してください。今社会は以

前とは大きく変わっています。女性の社会進出、男女平等、少子高齢化等々。それに対し教会活動の仕組みが何十年も変わらなくていいのでしょうか。個人的仮説ですが、例えばマドンナ会とヨセフ会と男女を分けておく必要があるのでしょうか。セクションを作ることにより協働ができないということが考えられます。一緒にして「信徒会」にしてもいいんじゃないかと個人的には思います。

変えなくていいという人もいれば、変えたいという人もいるでしょう。皆さん一緒に考えていきませんか。1月から委員会をオープンにし委員以外の方も会議を傍聴できるようにします。この1年、私たちはこれらのことに向き合い、話し合い、お互いを理解しこの片瀬教会をより良いものとしていきたいと思っています。



典礼暦年ってどうなっているの？

年の初めに教会の暦についてお話ししたいと思えます。何か教会の動きを見ているとカレンダーの暦とはずれているようです。一体いつ始まっていつ終わるのでしょうか。

「愛の母なる教会は、神聖なるその花婿の救いのみわざを、一年を通して、一定の日に、聖なる想起をもって祝うことを自己の務めとしている。毎週、教会は「主日」と名付けた日に、主の復活を記念し、また、年に一度、復活祭の盛儀をもって主の幸いの受難とともにそれを祝い続けるのである。

また、教会は、一年を周期としてキリストの神秘全体を、受肉と降誕から、昇天へ、ついで聖霊降臨日へ、さらに、幸いなる希望と、主の来臨との待望へと展開しているのである。

教会は、こうして、あがないの秘義を記念しつつ、おのが主の徳と功德との富を信者に開放するのであって、それによって、この秘義が、あらゆる時に、現存するものとなり、信者はこれに接して、救いの恵みに満たされるにいたるのである。」

これは、第2バチカン公会議『典礼憲章』102節です。私たちは1月1日に新年を迎えますが、典礼暦のサイクルは、待降節から新年が始まり、翌年の待降節の前日（土曜日）に終わるようになっていきます。リーフレットに書かれているのが、A、B、C年という表現です。これは主に読まれる福音を表し、A年はマタイ、B年はマルコ、C年はルカが読まれます。この3つの福音書は共観福音書と呼ばれ、共通する記述、言葉が見られます。ヨハネ福音書は主に復活節に読まれます。

2021年12月度 教会委員会報告

開催日時：2021年12月5日(日)午前11時30分～12時45分

参加者：ブランチ神父、委員長、副委員長、典礼、冠婚葬祭、宣教司牧、福祉、財務、総務、教会学校、丸田中高大青会、マドンナ会、ヨセフ会、キリスト教連絡会、一粒会、片瀬修道院、モンタナ修道院

□ブランチ神父様挨拶

・先月の集まりで私は恵まれていることの感謝の話しをしました。たくさんの人の交わりを感謝しています。クリスマスの準備もできるでしょう。

12月20日の叙階記念のことが話題になっています。12月20日に10時から茅ヶ崎教会でミサを挙げることになっています。可能かどうかわかりませんが、周りの教会で参加したい人がいたら12月21日にミサを挙げたらどうかと思っています。(注：後日21日予定のミサは行わないことになった)

□日程

1. 12月11日 1)「信徒・修道者・司祭が共に分かち合う交流会」
12:30～16:30
大船教会 ブランチ神父、西田、池尾の3名が出席予定。
2)「ふじさわ市民クリスマス」YouTube 配信
16:00～ 詳細はポスター
2. 待降節準備
 - 1) 12月12日 黙想会(植栗師)8時、10時夫々ミサ後、赦しの秘跡。
 - 2) 12月19日 大掃除、ワックスがけ。8時ミサ後信徒会館1F、10時ミサ後聖堂。外回り清掃
3. クリスマス
 - 1) 昨年同様申込制。対外的なお知らせはしない。駐車場はフリーとするが、体が不自由等は事前に連絡を受け対応する。
(12月12日からのお知らせに掲載)
 - 2) ミサ時間 12月24日(金) 18:00 21:00
25日(土) 10:00
26日(日) 10:00
 - 3) 聖歌は、聖歌隊の録音を流す。
 - 4) 24日18:00のミサ後、中高大青会はパーティをする。中高大青以外でも参加したい人は参加してもよいことにする。場所は後報。(コロナ感染対策は十分気を付けて行う)
4. 1月1日(土) 神の母聖マリア ミサ9:00 11:00
5. 1月2日(日) 主の公現 ミサ10:00
6. 1月9日(日) 新成人祝福(10:00ミサ) ミサ後お祝いをする(中高大青会担当) ※新成人には司祭、委員長連名で招待状を出す。
7. 車の祝福。例年、成人式の日に合わせて行っていたが、今年を行うかは未定。司祭が実施するかしないかまたは方法を変えてやるかを定める。

8. 1月16日（日）1月度教会委員会

□報告および連絡事項

1. 第5地区共同宣教司牧委員会（11月28日、於：大船教会）
第5地区ヴィジョンの見直し手順
 - 1) 司教が示している「交わりとしての教会」ヴィジョンを学びなおす（各小教区でも読み合わせ等を行い、信徒のコンセンサスを得る）
 - 2) 司教ヴィジョンを基に第5地区としてのヴィジョンを策定
 - 3) ヴィジョン実現に向けての課題抽出と解決。課題については小教区同士の情報の共有を図り、地区全体での取り組みとする。
2. 信徒会館エアコン 11月22、23日で設置完了。
3. 長谷川路可掛軸修復「エジプト避行」及び「十字架の道行き」の修理開始
全体の修理は来年3月完成予定。
「十字架の道行き」のレプリカを作成するか検討を要す。
4. 司祭館前の花壇にパスカール神父様追悼の立て札を作り替えた。
1月のからし種に掲載予定。

□検討・討議事項

1. 2022年教会活動計画
 - 1) 信徒の交わりを深めるには
 - ①地区集会の開始。
1月23日から。住所単位での地区内で知り合うこと。10時ミサ後に行く。事前にお知らせをする。地区別で“その他”とされている方々は地域分布等の実態を整理しどのようにするか検討する。
 - ②委員へのお願い
他に考えられる方法を各自委員長に提案する。
紙またはメールで期限12月31日迄。
 - 2) 教会組織の見直し
 - ①現在の組織を整理し、活動内容の共有化を図る。現状各部会は前任者の引継ぎにより行われているが、教会内の情報共有がない。
 - ②委員へのお願い
そこで、まず始めに次の各部会として下記の項目について整理し文書化する。
 1. 今やっていること
(実態を具体的に。コロナで中断している活動も含める)。
 2. 今やっていないがやるべきと思っていること。
 3. 今やってはいるが、自分たちの活動にはなじまないと思っていること。
 4. 組織全体としてこうしたら良いのではないかとと思っていること。以上、箇条書きで12月31日迄に委員長に紙またはメールで提出。
 - ③上記の委員アンケート結果を1月の教会委員会で整理検討し今後の

方針を決める。

2. 教会での救急医療体制

現在、コロナ禍において、教会に所属している看護師が教会に来られない状態が続いている為、総務より増澤先生に救急体制について相談した結果、別紙資料を作成して下さい。

3. 2021 年度研修「傾聴『良い聴き手になるために』」募集。

聖堂入口に案内掲示。締め切り 2022 年 1 月 23 日。
受講希望者は司祭へ申し出ること。

4. 小田急片瀬江ノ島駅の広告契約継続。

期間 2022 年 2 月 1 日～2023 年 1 月 31 日。

次回委員会開催 1 月 16 日

＋クリスマスに向けての黙想会＋



12 月 12 日の主日のミサでは、植栗神父様の司式による待降節の黙想会が行われました。8 時と 10 時のそれぞれのミサの後、植栗神父様はこれからクリスマスに向けての心の整え方についてご講話くださり、続いて信者には個別に赦しの秘蹟を授けていただく機会が与えられ、一人ひとりが待降節に自己を見つめる大切な時を過ごしました。

◆ブランチフィールド神父様 祝ダイヤモンド◆

12月20日、ブランチフィールド神父様のダイヤモンド祝い（叙階60周年）に先駆けて、19日の主日のミサの中で、信徒がそれぞれ書いたメッセージカードのプレゼントと花束贈呈で、お祝いをいたしました。ブランチ神父様からは、「日本でお祝いを受けられたことに感謝しています。このことで頭がいっぱいの一週間でした。自分がある限り、皆さんのために祈りたい。」と、心強いお礼の言葉が述べられました。

今まで司牧された教会にご案内を送ったところ、平塚、鍛冶ヶ谷教会等からお祝いに駆けつけられた方々が、澄んだ青空の下、懐かしくお話しされていました。

ブランチ神父様、これからも神様のお恵みによって、いつまでもお元気で、私たち信徒のために司牧して下さることを心より願っています。

ミサ後の大掃除は、中高大青会の皆さんが若い力を発揮され、神父様の良き日にふさわしい年越しの行事となりました。



ブランチ神父様のための祈り

主よ、ブランチフィールド神父様を司祭としてお選びになり、この六十年間にお与えくださった恵みに私たちも心を合わせて感謝致します。

これからもブランチフィールド神父様の健康を守り、人々に福音を告げるために聖霊の息吹を送って下さい。

私たちも、神父様と共に、あなたと人々のために忠実に仕えて行くことが出来ますように。

主 イエスキリストによって

アーメン

戦後の自由と再建

1945年、太平洋戦争は終わりました。カトリック教会の前には大きな仕事がありました。破壊された施設を再建し、悪夢から覚めて呆然とする国民に、今こそキリストの福音を伝えなければなりません。

国家神道は終りを告げ、新憲法には完全な信仰の自由が盛り込まれました。全世界からたくさんの援助が寄せられ、戦後10年間に38の男子修道会と26の女子修道会が来日し、社会福祉事業や学校教育事業を起し、日本の教会の再建を助けてきました。1946年に10万8千人だった信者数は、1955年に21万2千人、1960年には27万7千人、1962年には29万6千人と増えていきました。1952年には日本政府からヴァチカンに大使が送られました。

信者数だけでなく、司祭あるいは修道者への召命も増えていきました。1947年に福岡の大神学校が設立され、東京の大神学校とともに、毎年、新しい司祭を送り出しました。代教区はすべて司教区に格上げされ、1962年には、東京と長崎の2つの大司教区と、13の司教区がありました。1960年には東京の土井辰雄大司教が枢機卿に任命されています。



土井辰雄枢機卿

しかし1960年代に入ってから発展の勢いは、それまでに比べて緩やかになっていきます。経済成長が加速し、人々は物質的な豊かさを求めるようになっていました。その状況に落胆し、日本を離れる外国人宣教師も現れました。

発展の鈍化は、カトリック教会自身にも責任がありました。そのころの教会はまだ日本への適応が不十分でした。地域密着化はカトリック教会の、日本のみならず全世界に共通する課題でした。1959年、教皇ヨハネ23世はそのような状況を見越してか、公会議を開くという考えを発表しました。「教会の窓を開けて新鮮な空気を入れよう」という教皇のことばが、進むべき道を示していました。

(結城了悟師による同名の著書をベースに構成)

† 1月の典礼 †

1日(土)	神の母聖マリア	24日(月)	聖フランシスコ・サレジオ 司教教会博士
2日(日)	主の公現	25日(火)	聖パウロの回心
9日(日)	主の洗礼	26日(水)	聖テモテ 聖テトス司教
16日(日)	年間第2主日	28日(金)	聖トマス・アキナス司祭 教会博士
17日(月)	聖アントニオ修道院長	30日(日)	年間第4主日
21日(金)	聖アグネスおとめ 殉教者	31日(月)	聖ヨハネ・ボスコ司祭
23日(日)	年間第3主日 (神のことばの主日)		

† ミサの日程 †

- 1月1日(土) 神の母聖マリアミサ 9:00 11:00
- 1月の主日ミサ
 - 1) 1月2日 主の公現 10:00のみ
 - 2) 1月9日～ 8:00 10:00
- 1月9日(日) 新成人の祝福 10:00ミサ
- 1月16日(日) 1月度教会委員会 10:00ミサ後



花だより

～ガーデニングサークルより～

パスカーレ神父様メモリアル花壇（司祭館の前）の立て札をリニューアルしました。ブランチ神父様がプレートを作成され、ガーデニングメンバーのデザインで完成しました。

◆◆お知らせ◆◆

◇山口道孝神父様の活動の為の物資（米・小麦粉・パスタ・トイレットペーパー・調味料）を毎月集めています。信徒会館内に箱がありますので是非ご協力をよろしくお願い致します。

◇耳で聞くからし種

聖堂入口に置いてありますのでご自由にお持ち帰りください。

◇ご高齢でミサに出られずご聖体を頂きたい方はご遠慮なく申し出てください。聖体奉仕者も含めて対応します。

<お願い>

コロナ感染対策は継続しています。ミサ中でも窓を開けて換気を行いますので、暖かい服装で与ってください。

2022年1月号

発行 カトリック片瀬教会

〒251-0035

藤沢市片瀬海岸2-2-35

TEL. 0466-22-4646 FAX. 0466-25-7909

<https://www.catholickatasechurch.com>